

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1196501140		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイさいたま岩槻グループホーム		
所在地	埼玉県さいたま市岩槻区本宿126-6		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 30 日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 1 月 23 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 5 年 12 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ツクイさいたま岩槻グループホームでは、お客様に本当のご自分の家のように感じて頂けるように、思いやりと優しい言葉がけでお手伝いをしております。自分の親や身内だったら、どのように過ごしてもらいたいのか、どのように介護してもらいたいのかを職員全員で考えてケアに生かしています。散歩は毎日行っています。午後はレクリエーションや体操などをします。また、出来る方には、家事と一緒にやっていただくなど、役割を持って生活して頂いています。外出レクでは、毎年、ひまわり畑やコスモス畑などに行っております。また、定期的に近所のツクイ岩槻デイサービスに招待されて音楽鑑賞を楽しんでおります。また、敷地内に畑があり、キュウリやトマト、ブロッコリー、ピーマンなどの野菜を作っています。皆様、昔の事を思い出して楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

オープンして3年、コロナ禍でのスタートであったがオープン時職員と一緒に作った理念を基本に、家庭で出来ること、出来ていたことは、この事業所でもやって頂くこととしている。例えば、朝の一斉掃除、お昼の食器洗い、洗濯物を干したり、たんで貰うことも、それぞれ役割分担で行っている。職員もいつも笑顔を保ち、日々の支援に努めている。庭には家庭菜園があり、入居者と職員と一緒に収穫している。採れたてのキュウリやトマト、ブロッコリーが食卓を賑わしている。また、医療との連携も密である。提携医があり、月4回来訪して、順番に一人月2回診察を受けている。訪問歯科も毎週来ている。直接雇用の看護師がいて、週1回来訪して、入居者の健康管理に努めている。終末期の対応も、提携医や家族との打ち合わせを密にしている、事業所での看取りも3名行った。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔あふれる温かい家庭をきずきます」という理念を共有して、実践につなげている	オープン以来、「笑顔溢れる、暖かい家庭を築きます」を理念に掲げ、事業所は、家庭の延長と、位置付け家庭で出来ること、出来たことを事業所でもやって頂くように努めている。職員は、必ず、一人ひとりに笑顔で挨拶を交わしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、回覧板なども回してもらい、地域の方と交流している	町内会に入っていて、回覧板が来ている。コロナ禍でのオープンで、地域交流は、不十分であったが、地域の清掃に参加したり、散歩の途中で農家から果物を頂いている。ボランティアも手話ダンスや小物づくりを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域連携室を設置しており、認知症サポーター養成講座などを開催予定		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍が落ち着き、運営推進会議を11月から現地開催している。今後、生かしていく	11月から、対面の運営推進会議を開催している。町会長を始め、地域包括、家族、所長、計画作成担当が参加している。身体拘束禁止指針を伝えたり、行事報告などをおこなっている。また、家族からの意見や要望を聞き取っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、疑問やわからない事などがあると気軽に質問させて頂いており、密に連絡をとらせて頂いている	市役所には、介護保険制度でわからないことを確認している。区役所には、個人の交付申請や生活保護者の相談をしている。また、市役所からは、認知症基礎研修の案内があり、職員がリモートで参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止委員会があり、2カ月に1回開催している。また、年に2回以上の研修を行い、記録も残している。全職員で、グレーゾーンも含めて、身体拘束をしない介護をしている。	事業所内に、身体拘束禁止委員会があり、2ヶ月に1回開催している。具体的事例研究を始め、身体拘束に当たるか当たらないかのグレーゾーンや、スピーチロックなどを振り返り、情報共有している。また、年2回法人本社からの研修もおこなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても身体拘束禁止と同じように取り組んでいる。年2回以上の研修を行い、記録も残し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	やまぶきユニットの方、お一人、入居後に成年後見人をつけた方がいる。今後も制度を活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、まず、重要事項を説明し、質問には丁寧に答え、十分ご理解頂いた上で、契約書にサインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を11月から現地開催しているので、意見をお聞きし、運営に生かしていく。それ以外でも何かあった時は、ご連絡を取るようしており、その機会にご要望も聞くようにしている。	運営推進会議に家族が参加して意見を聞き取っている。コロナが落ち着き、面会の要望が寄せられていて、面会を再開している。また、月1度のお便りを発信して、入居者の日々の暮らしをお伝えしている。意見箱も玄関に設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ミーティングを開いており、職員の意見や提案を聞いている。また、雇用契約の更新時にも面談をし、意見などを聞いている。	月1回フロアごとのミーティングを開催している。事前に、打ち合わせ事項や要望事項を考えてもらい、参加頂いている。重度化してきた人も、二人介助でトイレで排泄を促す提案などがあり、実践している。また、定期個人面談も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社が外部の業者に委託し、職場環境などのアンケート調査などもあり、無記名WEB回答で、本音を聞けるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月々の研修やそれ以外のコンテンツでもE-ケアラボを取り入れており、全職員の学ぶ機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他社が開催して、オンラインでの研修や講習会への参加の機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント実施時に生活歴や習慣、好きな事、要望等をよくお聞きし、プランに取り入れ、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは、連絡を密にとり、不安や要望に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とも話し合い、例えば訪問マッサージに来てもらい、機能訓練などもやってもらうなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯物置、茶わん洗いなど、出来る事をやって頂き、役割を持って生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒にご本人のことを考え、意見を交わしあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、お友達が面会に来ることもある。お友達から電話がありおつなぎして、楽しくお話している方もいる。また、お手紙のやり取りをしている方もいる。	入居者は地元の人が多く、知人・友人の面会がある。お墓参りなどは、家族が同行している。友達からの電話も多く、取り次いでいる。クリスマスカードや、年賀状が来たりして、返事の手伝いもおこなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が、一緒にレクリエーションをやったり出来るように支援している。隣の席同士の方で気が合い、仲良くしている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、何かの時には連絡をとり、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の暮らし方に合わせ、意向を尊重している。その日の気分で散歩に行くか行かないか決めたり、不定期な時間でも、コーヒーをお出ししたりしている。フロアにいる方も自分の部屋でゆっくりしている方もいる。	入居前、自宅を訪問して、本人、家族に、過去の生活歴や趣味、嗜好、入居したらどのように過ごしたいかを確認している。日々の暮らしの中で、音楽の好きな人、映画が好きだった人など聞き取り、CDを持参してもらい、聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしで、朝はパンという方には、毎朝パンをお出しするなど、今までの暮らしを継続出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの有する力に合わせて、茶わん洗いや洗濯物干しや洗濯物たたみなどをやって頂いていある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書を作成する時には、看護師など他職種も含め十分にアセスメントし、ご家族にも希望を聞き、現状に即した計画書を作成している。	記録は、申し送りノートやタブレットを活用して情報共有している。居室担当がモニタリングを行い、月1回開催のケアカンファレンスで計画作成担当を中心に、職員全員で、打ち合わせを行い、家族からの希望も取り入れ、プランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スコープ・オンラインというシステムにすべてのケアや情報を記録し、管理し、職員全員で共有し、実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対して、柔軟に対応している。タバコをやめられない方は、タバコ。飼っている犬と一緒に暮らしたいという方にも前向きに検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩などで、ご近所に野菜や花を頂いたり、交流を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医にかかっている方も、ご家族が今までの所にお連れしている方もいるが、連携をとり、適切な医療を受けている。	提携の訪問診療があり、月4回来訪して、利用者は順番に月2回受診している。訪問歯科も月2回、また、直接雇用の看護師が週1回来訪して、健康管理に努めている。夜間は、提携医が24時間オンコールであるが、緊急時は救急搬送としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への連絡ノートがあり、情報や気づきを直接看護師へ伝えられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院のソーシャルワーカーと密に連携をとり、早期の退院に向けて情報共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	在宅クリニックが24時間対応なので、看取りもやっている。家族とも十分に話し合い、3名様の看取りを行った実績がある。	終末期の対応の指針があり、入居時詳細説明している。重度化してきたら、提携医、家族、事業所が連携を密にして、打合せしている。医療処置が必要な人は、病院に入院して頂いている。なお、事業所での看取りも3名行った。職員も対応出来ていて、情報共有もしっかり出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて、訓練や研修を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難のための研修を行っている。隣がオーナーさん宅なので、何かの時にはご協力頂けるようになっている。	避難訓練は、年2回、日中、夜間それぞれの想定で実施している。隣が大家さんなので、夜間対応等協力頂いている。非常食、飲料水は、1日分の備蓄があり、近隣の系列デイサービスから届けて貰う。	防火訓練は、年2回行っているが、地震・水害対策は、不十分と思われる。地震・水害対策訓練の実施と、事業所独自の備蓄をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お話する時は、必ず敬語を使い、人格を尊重した態度で接するようにしている。常に、優しい声がけをするようにしている。	個人情報については、書類は、鍵のかかるロッカーに保管、パソコン、タブレットは、職員のパスワードで管理している。入居者の人格尊重については、必ず敬語を使うように努めている。また、トイレ、浴室などは、ドア閉めを励行している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合で物事を進めず、自己決定して頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースでその日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	アマゾンで、ブレスレットやネックレスを買ったりして、おしゃれを楽しんでいる方もいる。また、ネイルアートなどもやっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	両フロアにおいて、何人かの方が、準備や片付けに関わってくれている。取り分けしてくれたり、運んでくれたり、洗い物をしてくれたりしている。	食材は外注で運ばれ、献立表に従い、職員が調理している。出来る人は、盛り付け、洗い物、テーブル拭きなど手伝っている。家庭菜園があり、きゅうり、ミニトマト、ピーマンなど、入居者と一緒に収穫して、季節を感じる、食卓となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量がオンラインシステムで記録されているので、それを確認し、足りない時は声がけしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員にお声がけし、口腔ケアをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの定時誘導を心掛け、出来るだけトイレで排泄してもらえるようにしている。立てない方も昼間は、2人がかりで、トイレにお連れしている。	タブレットを活用して、トイレ誘導の時間、便の状態、リハビリパンツ、パッド交換など、細かく確認出来ている。夜間対応も、タブレットで確認しながら、個別対応出来ている。日中は、全員トイレ誘導して、トイレでの排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オンラインシステムで、何日便が出ていないかも一目でわかるので、便秘がちな方には、ヨーグルトや牛乳をお勧めするなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間はなるべく希望を聞き、それに沿えるように支援している。	基本週2回入浴している。時間帯は、午前中としている。入浴嫌いな人もいるが、散歩にお連れして汗をかいたところで脱衣して、入浴頂いている。また、職員と1対1で、会話が弾み、さまざま情報共有出来ている。ゆず湯やしょうぶ湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないとおっしゃるときは、温かいミルクをお出ししたり、ゆっくりお話をしたりして、安心して頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は、2名で確認し、飲み込みまで見守りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特別に食べたい物をお聞きした時は、職員が買って来ている。また、外食が出来ないので、リクエストにお応えした昼食などもお出ししている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は毎日行って、季節を感じて頂いている。ご家族が外出にお連れする方もいる。また、季節ごとにお花を見にドライブなども行っている。	天気の良い日は、必ず近所を散歩している。また、ベランダで、外気浴も楽しんでいる。また、春はお花見、夏はひまわり畑、秋はコスモス畑などに出かけて、季節を感じることも出来ている。家族が面会に来て一緒に、食事や買い物に出かける人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を安心のために持っている方もいる。2軒先のドラッグストアに買い物支援で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と電話で話したり、手紙のやり取りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具も長く座っていても疲れない椅子を使用しており、壁やテーブルなども、工夫し、快適に過ごせる空間を作っている。	リビングは、南向きで明るい。今は、季節を感じるクリスマスツリーなど飾っている。キッチンは、対面で、食事を作る音や匂いも感じることが出来る。掃除は、朝、利用者と職員と一緒にしている。エアコンや空気清浄機があり、温度や、湿度もしっかり管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で、ゆったりマッサージチェアを利用する方もいる。気が合う方とお話したり、窓際で景色を見ながら、日向ぼっこをする方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置く家具や必需品は、ご家族と相談しながら、用意している。家にある、使い慣れた物を持って来る場合が多い。部屋に飾ってある絵画を見て、毎日、自分の部屋と認識する方もいる。仏壇を置いている方もいる。	エアコン、ベッド、カーテンは備え付けられている。在宅の延長で、自宅で使い慣れた物、趣味の物など持ち込んでいる。仏壇や絵画等飾っている人もいる。掃除は、出来る人は、自ら行っている。職員も週1度清掃に入っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯が終わったら、職員と一緒に干しに行くなど、安全に出来るようにしている。		